

新古賀病院

古賀病院 21

新古賀クリニック



「連携で地域医療に貢献」理事長 古賀伸彦	P 1
天神会のホームページ一新	P 2
「白く光るプラークに破綻の危険性」	P 4
新古賀病院院長・副院長ごあいさつ	P 5～6
最先鋭のCTとMRIを導入	//
古賀病院21院長・副院長ごあいさつ	P 7～8
古賀病院21の「病院機能評価」更新認定	//
泌尿器科新設、前立腺がんの一貫治療体制整う	P 9
PET受診者が2万5千人突破	P 10
新古賀クリニック院長ごあいさつ	P 11
人間ドック・健診施設機能評価の更新認定	//
天神会の外来診察予定表	P 13～14

新古賀病院の「地域医療支援病院」承認

P 3～4



2010年6月

2010年6月発行  
医療法人「天神会」広報誌第5号  
発行／医療法人「天神会」  
編集・製作／医療法人「天神会」広報部  
印刷・製本／株式会社四ヶ所

●●● 理 念 ●●●  
人々の豊かな生涯を支援する医療

### 行動規範

1. **病める人中心の医療** 病める人の権利を尊重し、プライバシーを遵守して、思いやりのある医療の実践に努めます。
2. **安全で高度な医療の提供** 病める人の安全を確保し、いつでも受療できる体制を整え、心のこもった質の高い専門的医療の提供に努めます。
3. **医療機関との連携** 地域医療機関との連携を緊密にし、生涯にわたる一貫性のある医療の提供に努めます。
4. **医療人としての研鑽** 私たちは医療人として、医療技術の向上に日々努め、節度ある態度をもって病める人に対処できるように自己研鑽に努めます。

医療法人 天神会



URL <http://www.tenjinkai.or.jp>

E-mail [info@tenjinkai.or.jp](mailto:info@tenjinkai.or.jp)

新古賀病院

〒830-8577 久留米市天神町120  
TEL : 0942-38-2222 (代) FAX : 0942-38-2255

古賀病院21

〒839-0801 久留米市宮の陣3-3-8  
TEL : 0942-38-3333 (代) FAX : 0942-38-3324

新古賀クリニック

〒830-8522 久留米市天神町106-1  
TEL : 0942-35-2485 (代) FAX : 0942-37-3793

天神会ホームページへは

# 病診・グループ連携で地域医療に貢献

全な冠動脈診断が可能  
な施設の一つになれた  
のではないかと自負し

医療法人天神会

の各病院は今年6  
月までのこの1年

間の人事で、左に掲載いたしました新  
たな体制で運営しております。新古賀  
病院では新たに3人が副院長に就任  
し、5人体制となりました。古賀病院  
21では今年4月から平松副院長が院  
長に就任し、副院長も新たに2人が加  
わって3人体制となりました。新古賀  
クリニックでは昨年6月、宮本院長が  
就任しました。組織の充実によって、  
患者さんの目線に沿ったきめ細かな  
思いやりの医療を推進するとともに、  
グループ連携をさらに深めて、地域の  
皆様のご期待にお応えしていきたい  
と考えています。



理事長 古賀伸彦

治療の終わられた患者さんは紹介さ  
れた医療機関に戻っていただく方針  
がいつそう求められることになりま  
す。今後とも病診連携をさらに深め、  
地域医療の向上に努力していきたい

と考えています。地域の皆様のご理  
解をよろしくお願い申し上げます。

天神会では数年前から身体的な負  
担をかけない冠動脈の非侵襲的  
画像診断に力を入れてきましたが、そ  
の成果が米国学会の学術雑誌  
に相次いで掲載されて注目を  
集めています。新古賀病院で  
は今年3月、最先端の64列高  
分解能CT(コンピュータ  
断層撮影装置)を導入したこ  
とから、さらなる新知見が期  
待されます。天神会グループ  
ではすでにCTや心筋シンチ  
による非侵襲的画像診断を定  
着させており、世界で最も安

ております。今後とも「ストップ・ザ・  
心筋梗塞」に取り組んでいきます。

古賀病院21では今年4月、財団法  
人・日本医療機能評価機構から「信頼  
できる病院の証明証」である「病院機能  
評価(Ver.6.0)」の更新認定を受け  
ました。受診者が2万5千人を突破し  
た早期にがんを発見するためのPET  
画像診断センター、がんの強度変調放  
射線治療機「トモセラピー」を導入した  
最先端の放射線治療センターに加え、  
今年4月には泌尿器科を新設し、前立  
腺がんの一貫医療体制が整いました。他  
職種連携の心臓病リハビリテーション  
は、循環器疾患の急性期から慢性期ま  
での病診連携の要として患者さんと地  
域医療機関の期待を集めています。

新古賀クリニックでも今年3月、健  
康管理センターが日本人間ドック学会  
の「人間ドック・健診施設機能評価」の  
更新認定を受けました。筑後地区では  
唯一の認定施設で、リニューアルした  
明るく落ち着いた雰囲気、男女別専用  
フロアが好評です。大腸や胃の検査を  
行う消化器(内視鏡)センターも完全個  
室で好評をいただいております。

今回、特に皆様にお知らせしたいの  
は、新古賀病院が今年4月、地域の医  
療機関を支援して地域完結型医  
療の中核を担う「地域医療支援病  
院」として福岡県知事からご承認  
をいただいたことです。「地域医  
療支援病院」は救急医療を提供  
し、地域の医療機関からの紹介患  
者数の比率が40%以上かつ逆紹  
介率が60%以上であることなど  
が承認の条件です。今後とも紹介  
患者さんを中心に診察し、診断や

新古賀病院	
院長	福山 尚哉(循環器内科) 2006年9月～
副院長	赤澤 昭一(糖尿病・内分泌内科) 2001年8月～
	林 明宏(呼吸器外科) 2008年10月～
	吉戒 勝(心臓血管外科) 2009年6月～
	肥山 淳一郎(呼吸器内科) 2009年6月～
	吉岡 真実(麻酔科) 2010年6月～
古賀病院 21	
院長	平松 義博(循環器内科) 2010年4月～
副院長	宮川 洋介(呼吸器内科) 2002年9月～
	二之宮 謙一(整形外科) 2009年10月～
	大曲 淳一(放射線治療科) 2010年4月～
新古賀クリニック	
院長	宮本 祐一(内科) 2009年6月～

## 天神会ホームページ一新



医療法人天神会では今年4月から、  
インターネットのホームページをより  
分かりやすく便利に利用していただ  
けるように全面的にリニューアルしま  
した。「天神会」で検索すれば、検索結果  
の一番上に天神会の索引が出てきま  
す。ぜひ一度、ご覧下さい。

総合トップページ右の画像  
には、天神会が新古賀病院、古  
賀病院21、新古賀クリニックで構  
成されていることが一目で分か  
るようにそれぞれの建物の全景  
写真を大きく配置しました。その  
写真をクリックすれば、各病院の  
トップページに行き、外来診療予  
定表をはじめ、外来受診や入院・  
面会、施設のご案内などが表示さ

## 立体駐車場の案内看板設置

れ、「患者さん向け」「医療関係者向け」  
「採用情報」「医療法人の紹介」のカテ  
ゴリーからもご覧になりたい情報に

行けるようにしました。また、最新情  
報コーナーの項目を増やすとともに  
お勧め情報コーナーも設けました。

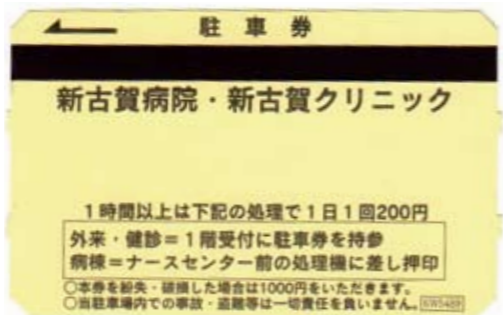
病院南側の市道沿いに設置した看板



シャトルバス停留所に設置した看板

医療法人天神会では、新古賀病院西  
側の立体駐車場を同病院と新古賀クリ  
ニックの患者さんや健診者、ご家族、面  
会の皆様にご利用いただいています  
が、立体駐車場への案内看板を新たに  
病院南側の久留米学園沿いの市道脇と

## 駐車券も変更



病院東側のシャトルバス停留所内  
にも新設しました。

また、立体駐車場の駐車券処理機  
の更新に伴い、駐車券も変更し、駐  
車券に1日1回の1時間以上の駐  
車が200円になる処理方法など  
を明記しました。

外来や健診関係は1階受付に駐車券  
を持参していただければ処理します。  
病棟関係はナースセンター前の押印処  
理機に差し込んで処理していただくこ  
とになります。

新古賀病院は今年4月1日、地域の医療機関を支援して地域完結型医療の中核を担う「地域医療支援病院」として福岡県知事から承認されました。今後とも、高度急性期医療などの各機能を最大限に生かし、地域の医療機関との連携をさらに強化して地域医療の向上を図り、地域の皆様によりよい医療を提供できるように努力していきたいと考えています。

### 病診連携の中核機能担う

地域医療支援病院とは、日常診療の第一線の医療機関である「かかりつけ医」を支援して、二次医療圏単位で専門外来や入院治療、救急医療などを行い、地域医療連携の充実を図る中核病院です。新古賀病院は下の表のような平成21年度実績ですべての条件を満たしていることから承認を受けました。地域医療支援病院として毎年、県に業務報告書を提出し、その内容

は県のHPで公表されます。

新古賀病院に古賀病院21、新古賀

- 1 地域の医療機関からの紹介率 49.4%、逆紹介率 74.1%
- 2 地域の医療機関に各種高度医療機器を開放するとともに、共同利用の開放病床 5 床を設け、107 の登録医療機関が 1,051 件を共同利用
- 3 24時間の救急医療体制で地域の医療機関からの救急患者 2,589 人を受け入れ、うち 465 人が入院
- 4 計 933 人を対象に地域の医療従事者の資質向上を図るための研修会を実施

#### 平成21年度実績



療機関の約200人の方々に出席していただき、榎原市長からは「市民が安全で安心して暮らせる高度医療社会を目指す久留米市の中核医療施設として、さらに力を発揮してほしい」との祝辞をいただきました。写真Ⅱ。

## 心臓病 市民セミナー220人受講



先端の心臓CTを

昨年10月の「市民がんセミナー」に続く市民公開講座「心臓病市民セミナー」写真左を5月29日、新古賀病院5階の記念講堂で開催し、市民約220人が受講され、医療法人天神会が取り組んでいる最新の心臓病診療への理解を深めていただきました。

心疾患はがん、脳疾患とともに日本人の死因の6割を占める三大疾病の一つで、特に恐ろしいのが何の症状もなく健康に暮らしていた人がある日突然、胸痛に襲われて急死する急性心筋梗塞です。新古賀病院では「ストップ・ザ・心筋梗塞」を掲げ、心筋梗塞や狭心症の診断が出来る最先端の心臓CTを

導入して定期的な「心臓ドック」を呼びかけるとともに、全国に先駆けて心臓冠動脈の病変と心筋虚血の相関を抽出する心臓融合画像診断装置を導入し、同装置による的確な診断を基に、全国でも有数のカテーテル手術などの実績を積み重ねて注目を集めています。

セミナーでは古賀伸彦・天神会理事長の挨拶のあと、こうした新古賀病院での取り組みについて福山尚哉院長が「心臓融合画像診断」狭心症の見える化、川崎友裕・心臓血管センター長が「最新の心臓病と治療」、上岡薫・栄養科長が「心臓病予防のための生活習慣」のテーマで講演しました。また、KBC九州朝日放送「ニュースピア」の武藤麻美キャスター写真右が、新古賀病院での心臓病の診断・手術の模様などを取材して今年1月19日夕に放映した「医療のチカラ」を会場内でも再映し、「心臓病の医療最前線」取材してのテーマで講演するとともに、取材を受けた患者さんにも治療の体験談を述べていただきました。

# 新古賀病院 地域医療支援病院として知事承認

## 「白く光るプラーク」に破綻の危険性

### 循環器内科グループ 米国学会でMRI画像の論文発表

狭心症や心筋梗塞は、心臓に酸素や栄養を送っている冠動脈などの血管内にコレステロールなどの脂質を含むプラークの沈着で詰まり、心臓の筋肉が機能しなくなることで起こる病気です。急性心筋梗塞は、このプラークが破綻して血管内に出た脂質が血液成分と混じって急速に固まり、血の塊（血栓）が血液の流れを塞ぐことによって発症します。原因となるプラークの存在は、最新鋭のCT（コンピュータ断層撮影装置）やMRI（磁気共鳴診断装置）によって描出できますが、新古賀病院と古賀病院21の循環器内科グループでは、MRIの検査画像で白く光って描出されるプラークが、他の普通のプラークよりも破綻して血栓を起こしやすい



いことを解明し、米国の心臓病学会に相次いで学術論文を発表して国内外の注目を集めています。MRI検査は、体内組織の原子核

が強い磁界にさらされると、特定周波数の電磁波に共鳴して自ら電磁波を発生する「核磁気共鳴現象」を利用した画像診断法です。このMRI検査の原理から、白く光って描出されるプラークと他の普通のプラークに

何らかの組織の違いがあることは推測できていましたが、循環器内科グループでは昨年6月、積み重ねてきた臨床データを基に、白く光って描出されるプラークの方がより破綻して血栓を起こしやすいことを突き止め、その研究論文が米国心臓病学会の学術雑誌に掲載されました。また、白く光るプラークが実際に破綻して急性心筋梗塞を発症した症例の研究論文も、昨年12月に米国心臓協会の学術雑誌「写真Ⅱ」に掲載されました。

さらに、白く光るプラークの見つかった患者さんの頸動脈内に、PET（陽電子断層撮影装置）検査でプラークの異常が発見される確率が高いことも解明し、今年3月の米国心臓病学会の学術大会で研究論文を発表しました。

## 特定給食施設に知事感謝状



新古賀病院の「特定給食施設」が2月10日、福岡県知事から「長年にわたり栄養及び食生活の改善に著しい功績をあげたこと」を感謝の意を表します。平成21年2月10日 福岡県知事 麻生 茂 感謝状

# 安心と信頼の病院作りを



新古賀病院  
院長 福山尚哉  
＜循環器内科＞

千件、わが国で最初に導入した心筋シンチグラムとの融合画像件数も1,200件を超え、質・量ともに一流病院としての条件をそろえる努力が実りつつあります。各診療科とも科学的な根拠（エビデンス）を基にした質の高い医療を皆さんに提供するため、日々の研鑽および学会や研究会の活動にも積極的に参加しております。昨年8月に発売された週刊ダイヤモンドの「頼れる民間病院ランキング」では産業医大と並んで九州で1位、全国でも14位にランクされました。また本年4月からは地域医療支援病院に認定されることになりました。

久留米市およびその周辺地域を支援する病院として、近隣の病院や診療所などの医療施設および介護施設との連携、さらには患者さんだけでなく家族・市民の方々も含めて、この地域全体が安心と信頼を持てるような病院作りを目指していきます。

昨年には戦後初めての政権交代という大きな変革がありました。またアメリカ発の経済不況、そして中国からの毒入り餃子など海外からの大きな波が次々と押し寄せ、終にはトヨタ自動車のリコール問題、そしてチリ地震の津波まで、いかにも世界が狭くなったことをつくづく感じさせられました。

医療の世界だけが安泰というわけにはいかず、やはり不況の波がじわじわと押し寄せてきています。日本病院会の平成20年度決算調査報告書によると一般病院の68%が赤字になったとのこと。10年余りも続いた医療費の削減政策は政権交代によって何とか食い止められたものの、財源の問題もあって医療や福祉まではなかなか予算が回らないようです。

私ども新古賀病院は厳しい経済情勢のなかでもそれなりに健闘をしています。脳神経外科のガンマナイフ治療は3,700件を超え、放射線部門の心臓CTは1万1

## 糖尿病三大合併症を抑制

の治療を取り入れ、血糖コントロールを良くし、糖尿病三大合併症（眼、腎臓、神経障害）の抑制をす



副院長 赤澤昭一  
＜糖尿病・内分泌内科＞

心筋梗塞や脳卒中などの病気は我が国の死因の3分の1を占め、癌に次いで、私たちが罹りたくない病気です。これらの病気は動脈硬化性疾患とも呼ばれていま

す。高血圧、糖尿病、高脂血症（コレステロールや中性脂肪が高い）などの病気の治療が不十分の場合、徐々に進行し、突然発症し、時には死にいたるの

で、サイレントキラーとも呼ばれています。新古賀病院は、循環器センター、脳血管センターにおいて最先端の設備を取り入れ、皆様の万一の場合に備

## 呼吸器通じ全身を診る

の影響で呼吸器疾患の患者さんは増えています。



副院長 肥山淳一郎  
＜呼吸器内科＞

2003年4月から新古賀病院で呼吸器内科を担当し、昨年6月に副院長

になりました。呼吸器内科の診療する分野は、かぜや肺炎などの呼吸器感染症、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの閉塞性肺疾患、間質

性肺炎などのびまん性肺疾患、呼ばれています。高齢化社会の進展や喫煙習慣

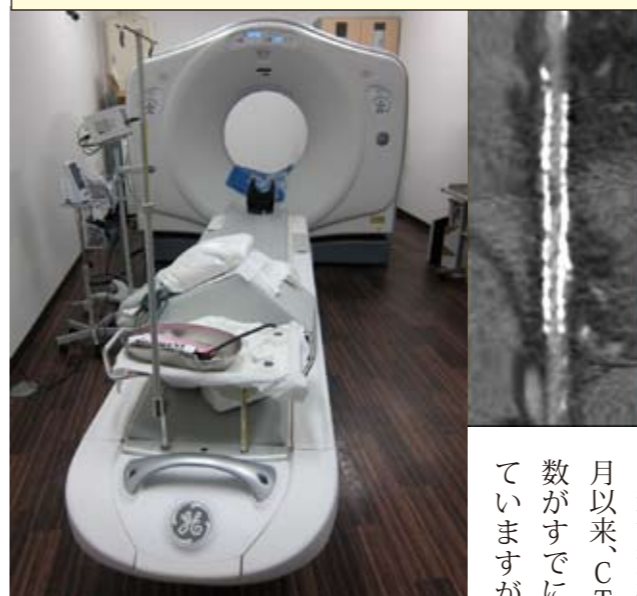
## 最新鋭のCTとMRI導入

新古賀病院では、今年3月にGE社製64列高分解能CT（コンピューター断層撮影装置）、5月にはフィリップス社製3テスラMRI（磁気共鳴画像診断装置）という最新鋭装置を導入しました。CTはこの64列高分解能CTと16列CTの併用検査態勢となりました。また、MRIは従来の1.5テスラMRIも合わせた2装置併用の検査態勢となり、新古賀クリニックが窓口の「脳ドック」も迅速に実施できるようになりました。

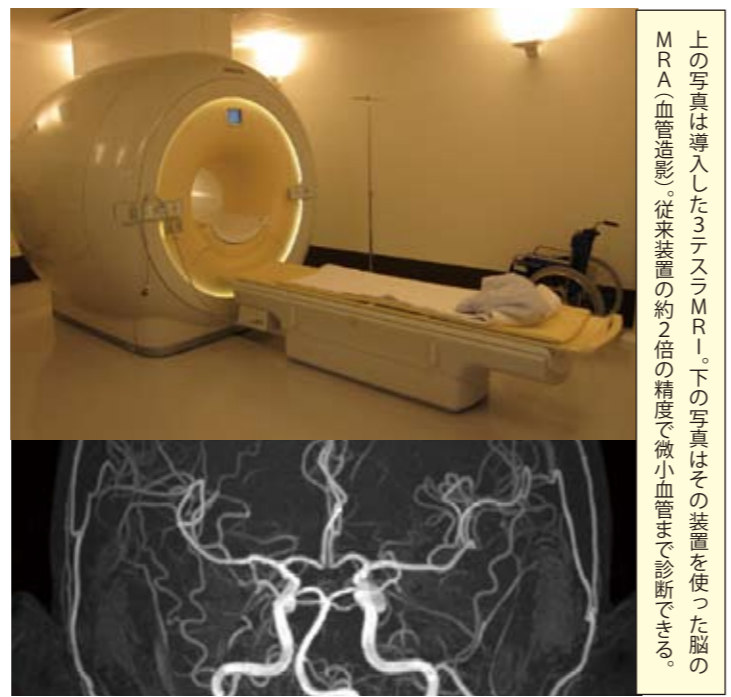
### CT 高速度で高画質の画像描出

導入した64列高分解能CT（Discovery CT 750 HD）は、64列であることはこれまでの装置と変わりありませんが、X線を光に交換して画像を検出する検出器素材に、GE社が20年以上の歳月を費やして開発したジェムストーン（GEMSTONE）のガーネットを採用するとともに、最先端の画像再構成法を用いているのが特長です。従来装置に比べ約百倍の高速度で画像が検出でき、かつ従来と同じX線量であればさらに高画質に、同程度の画像であれば従来の半分以下のX線量で画像化できます。

左下の写真は導入した64列高分解能CT。右下の写真はそのCTで撮影した冠動脈の拡大画像。ステント（白い2本の列）内部が鮮明に分かり、中央部にプラーク（黒い影）による狭窄が確認できる。



新古賀病院では2003年11月以来、CTを使った心臓検査件数がすでに1万1千件を突破していますが、新装置は狭心症のカテーテル治療で冠動脈に取り付けた直径2・5ミリ以下のステント（医療用ステンレス製の管）の内部まで鮮明に描出できるなど、診断精度が飛躍的に向上しました。



上の写真は導入した3テスラMRI。下の写真はその装置を使った脳のMRA（血管造影）。従来装置の約2倍の精度で微小血管まで診断できる。

### MRI 人工知能搭載で高画質画像

MRIは核磁気共鳴現象を利用した画像診断法で、X線を使うCTに比べて身体に負担の少ないのが特長です。主に脳疾患の診断に使っていますが、導入した3テスラMRI（Achieva 3.0T TX）は、従来の装置に比べ、磁場強度が二倍の電磁波の使用を可能にした最新鋭装置です。人工知能を搭載することによって複数の電



# 病院機能評価「Ver.6.0」認定証

## 古賀病院21に

古賀病院21は4月2日、財団法人・日本医療機能評価機構から「病院機能評価(Ver.6.0)」認定の更新を受け、認定書をいただきました。この病院機能評価の認定は、厚生労働省などによって設立された日本医療機能評価機構が、全国の病院の機能を学術的かつ中立的な立場で審査し、諸問題を改善し着実な成果を上げている病院に与える「信頼できる病院の証明証」です。認定書は2015年6月19日までの認定期間中、病院1階の外来受付の壁面に掲示します。

古賀病院21では、2005年6月20日(0)の認定が更新の時期を迎えていた。今回認定された「病院機能評価(Ver.4.0)」の認定が更新の時期を迎えていた。今回認定された「病院機能評価(Ver.6.0)」の認定が更新の時期を迎えていた。

本年4月より、磯本前院長からバトンを受け、院長に就任いたしました。病院の現状報告と共に、目指す医療の方向性について、ご説明させていただきます。ご挨拶いたします。

まず、他院にない当院の大きな専門性はPET画像診断センターと、強度変調放射線治療機(トモセラピー)をも導入した最新の放射線治療センターです。こうした放射線科の診断・治療体制を生かし、消化器内科、外科・呼吸器科・血液内科等との協力、連携による悪性腫瘍への集学的治療を、さらに積極的に推進していきたく考えています。



古賀病院21 院長 平松義博

〈循環器内科〉

また、4月からは泌尿器科診療を開始いたしました。癌の診療では特に、患者さんの身体や心の症状を早期から和らげるための工夫や努力を続けることも重要です。施設の実態と共に症状緩和への全職員のさらなる意識付けを行っていきます。

整形外科 診療では、高度な手術技術の提供は勿論ですが、回復期リハビリテーション病棟を活かし、患者さんの元気な日常生活への復帰を目指しています。腎臓内科の診療チームは長期化する透析医療を大きな利点とし、患者さん、ご家族の病後の生活を支える視点を忘れず、積極的な医療を継続してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

## 集学的がん治療を推進

まず、他院にない当院の大きな専門性はPET画像診断センターと、強度変調放射線治療機(トモセラピー)をも導入した最新の放射線治療センターです。こうした放射線科の診断・治療体制を生かし、消化器内科、外科・呼吸器科・血液内科等との協力、連携による悪性腫瘍への集学的治療を、さらに積極的に推進していきたく考えています。

## 課題の改善にご意見を



副院長 宮川洋介

〈呼吸器内科〉

医療法人天神会に勤務して16年目になります。呼吸器内科が専門です。古賀病院21は開院して8年目になりますが、まだまだ発展途上にあり改善すべき課題を多く抱えている病院です。皆様からのご意見やご助言をよろしくお願い申し上げます。

また、当院は久留米大学医学部や久留米医師会看護学校などから医学や看護の教育機関として指定を受け、学生の教育という役割を担っています。学生の見学や実習にご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 医療レベル向上を目指す



副院長 二之宮謙一

〈整形外科〉

昨年10月に古賀病院21の副院長に任命されました。私は平成12年6月に九州大学整形外科医局より新古賀病院へ派遣され、医療法人天神会の勤務は今年で10年目となります。この10年間、天神会は大きく発展してきました。平成14年9月に開院した古賀病院21は、宮の陣という地理的不便さがありますが、医療

整形外科は今年より常勤4名体制となり、更なる医療レベルの向上を目指していききたいと思っております。今後とも地域医療のために頑張りますので、御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

## 放射線がん治療に全力



副院長 大曲淳一

〈放射線治療科〉

国民の二人に一人がんに罹患する時代となっています。その主な原因は生活習慣の欧米化や長寿社会と考えられます。また検診や高精度の診断機器の発達によって早期に発見できていることも事実です。

す。治療技術の進歩や新薬の登場のため治療率が向上しています。医療法人天神会では集学的がん治療を掲げ、色々な治療法を組み合わせてがん医療にあたっています。



古賀病院21の全景

特に前立腺がんでは手術と同等の成績で、かつ副作用の軽い治療です。その他、早期がんであれば切らずに治療可能な病気もあります。進行がんや再発・転移の場合は症状緩和が主な目的となりますが、より優しい、より確実な治療を目指しています。

中の「放射線治療機能」については「病院として放射線治療に重点を置き、常勤専門医2人による優れた環境と高度な治療機器(トモセラピーなど)が整備されており、迅速かつ適切な治療が安全に行われている」、「画像診断機能」については「PET(陽電子放射断層撮影装置)、MRI(磁気共鳴画像診断装置)、CT(コンピュータ断層撮影装置)などの施設環境は極めて高いレベルにあり、診断のダブルチェック体制も整い、安全かつ的確に運用されている」などの積極的な評価もいただきました。



がんサポートチームの案内パンフレット

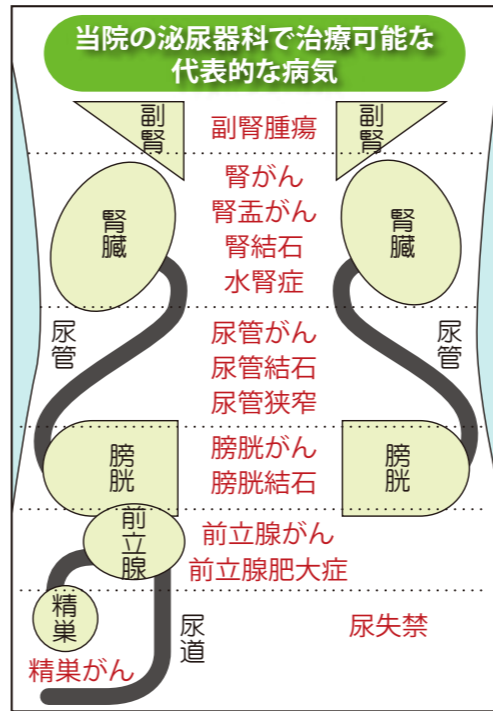
「理念および基本方針が病院の内外へ周知・徹底されているか」の項目では「地域中核病院としての機能と地域ニーズを反映させた役割が明確であり、内外へ周知・徹底されている」、「患者の権利と医療の質および安全確保の体制」の項目では「チーム医療の推進と診療の質の向上に努め、組織的な患者中心の医療を実施しており、独自のがんサポートチームなどの活動も行い、高く評価できる」などの評価をいただきました。

# 泌尿器科を新設

古賀病院21では、4月から日本泌尿器科学会専門医・指導医の北城守文先生を迎えて、当院19番目の診療科となる泌尿器科を開院し、放射線診断科や放射線治療科と連携した前立腺がんの検診・診断・治療の一貫医療体制が整いました。

泌尿器科では当院2階に診察室や治療室などを設けて、毎週火曜・土曜日の午前中と火・木・金曜日の午後、主に左の図に図解したような病気の診療を行っています。腎臓がんや腎盂尿管がん、副腎腫瘍などは、大きな皮膚切開による開腹は行わずに、1〜2cmの皮膚切開を3〜4か所つくり、その穴から腹腔鏡や鉗子などを挿入して、お腹の中が映し出されたテレビモニターを見ながら行う腹腔鏡手術を行います。また、膀胱がんや尿路結石症、前立腺肥大症などは尿道からの内視鏡手術による身体への負担の少ない低侵襲性治療が可能です。

# 前立腺がんの一貫医療体制整う



前立腺がんに対しては、強度変調放射線治療機を導入し、副作用の少ない最先端の強度変調放射線治療を行っています。泌尿器科の開院によって前立腺がんの検診・診断・治療の一貫医療体制が整います。

## 高校生がふれあい看護体験



古賀病院21での看護体験で入院患者さんと話す高校生

# PET受診者2万5千人突破

日本人の死因は「がん」が最も多く、三人に一人が「がん」で死亡しています。古賀病院21のPET画像診断センターでは、北部九州で最も早く2003年5月から「がん」を早期に見つけるPET総合健診を始め、今年3月16日、PETの受診者数が延べ2万5千人を突破しました。



PET検査を受ける受診者



検査結果を説明する吉田毅センター長

PETはブドウ糖によく似た「FDG」を静脈から注射して、「FDG」が人体のがん細胞に集まった様子を撮影する陽電子放射断層撮影装置です。自己負担の総合健診と健康保険適用診療の二通りの利用法がありますが、2万5千人の内訳は総合健診が1万8171人、健保適用診療が6243人、健保適用にならなかった自己負担診療が586人で、年平均約3600人、月当たり約300

人のPET診断を実施してきたことになり。2007年11月からは、CT(コンピュータ)断層撮影装置も備えた高精度で高画質の描出力を持つ最新鋭の「40列PET-CT」を全国で初めて導入しました。総合健診は下図のようなPETを含む各種検査を

**古賀病院21 泌尿器科**

	月	火	水	木	金	土
午前		○	○	○	○	○
午後		○		○	○	

泌尿器科部長 北城 守文  
泌尿器科(非常勤) 富田 能弘  
泌尿器科(非常勤) 西井 久枝

ご予約・お問い合わせ  
☎ 0942-38-3333(代表)  
(受付時間 月~土 8:30~17:00)

「がん」の発見は受診者の2・62%で、人間ドックのみの検査の10倍を超えています。今後とも最新鋭機「40列PET-CT」の精密な描出力と、延べ2万5千人もの方々に実施してきた豊富な診断実績を基に、さらなる「がん」の発見率向上と正確な診断を目指していきたいと考えています。また、今年4月からPETの健康保険適用

- PET 健診コースのご案内**
- スタンダード 87,150円**  
がんを調べる基本コース
  - エクセレント 131,250円**  
がんを詳しく調べるコース
  - PET・消化管 162,750円**  
消化器系のがんも詳しく調べるコース
  - 高度精密がん健診 194,250円**  
がんを高度精密に調べるコース
  - 三大疾病 194,250円**  
三大疾病を調べるコース
  - ゴールド 241,500円**  
三大疾病と高度精密を合わせたコース
  - プラチナ 297,150円**  
がん・心疾患・脳卒中・認知症を調べる最上級のコース
- ※エクセレントから40列PET-CT使用

## 久重の「弓曳き童子」を展示



久留米が生んだ幕末・明治初期の天才発明家・田中久重が製

作した「弓曳き童子」の復元人形。真IIが、PET画像診断センターの待合室の一角に展示され、受診者の目を惹かせています。厚生労働省の「現代の名工」にも選ばれた日本からくり研究会の東野進理理事長(大阪府)が復元したもので、精巧な仕掛けなどは久重制作の人形とまったく同じです。受診者にはNPO法人「久留米からくり振興会」(古賀伸彦理事長)が発行した「田中久重物語」(A4版4ページ)のパンフレットも配布して喜ばれています。

用疾患が拡大され、早期の胃がんを除くすべての「悪性腫瘍(がん)」の病期、または転移・再発のPET診断に健康保険が適用されるようになったことから、健保適用診療の増加が予想されます。

「ふれあい看護体験」に参加を希望した高校生らで、「一日看護師」の辞令交付を受けたあと、本職の看護師に付き添われて検温や検査、食事の介助などを見学し、実際に患者さんへの足浴や洗髪などを体験しました。

久留米市の久留米高校や八女市の福島高校、八女学院など筑後地区の高校生12人が5月12日に古賀病院21、16人が翌日の13日に新古賀病院で「一日看護師」を体験しました。

い、病状やインフォームドコンセント(正しい情報を伝えた上での合意)に応じた強度変調放射線治療や手術、ホルモン療法などの的確な院内治療ができるようになりました。

新古賀クリニックは、西鉄久留米駅から徒歩わずか2分の医療法人天神会発祥の地にあり、2008年に現在の名称に変更するとともに内装を明るく落ち着いた雰囲気に一新して、予防医療（健康管理センター）、メディカルフィットネス、メディカルアロマテラピー、プライバシーに配慮した医療（透視センター、内視鏡センター、婦人科外来、乳腺外来、化学療法室、創傷治療センター）、高齢者に優しい通所・在宅リハビリの3部門での診療、介護等を行っています。

# 解りやすい納得の医療を



新古賀クリニック  
院長 宮本祐一

<内科>

発見に取り組んでいます。生活習慣病の予防では、適切な食事・運動の指導、禁煙指導に取り組みほか、増加している糖尿病の早期発見や糖尿病境界型の方々への支援指導、脂質異常症の方々への動脈硬化進展防止（心筋梗塞予防、脳梗塞予防など）への早期介入、慢性腎臓病への早期介入などにも努めています。今や二人に一人が「がん」になる時代となり、「がん」の早期発見、早期治療は緊急の課題です。当健康管理

センターでは血液検査、内視鏡、マンモグラフィ、超音波検査、CT、MRI、細胞診など多くの診断技術を駆使して、できるだけ苦痛なく早期発見できることに力を注いでいます。新古賀クリニックでは常に全スタッフが一丸となって、多くの受診者の皆様が質問しやすい雰囲気の中で、解りやすく納得のいく説明や指導支援、情報提供を受けられることを心がけています。日頃からスタッフの研鑽と教育にも力を入れ、安全かつ安心で温かい医療を提供できるようにしております。どうぞお気軽にご利用下さい。



## 健康管理センター

新古賀クリニックの健康管理センターは、2006年1月に日本人間ドック学会の「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を受けた筑後地区では唯一の施設ですが、今年3月、184項目にも及ぶ機能評価をいずれもクリアして更新の認定証（写真）をいただきました。

## 人間ドック・健診施設機能評価の更新認定

この日本人間ドック学会の認定は、全国の人間ドックや健診を行っている施設が一定以上の基準を満たしているかどうかを評価し認定する制度です。日本人間ドック学会による書類審査と訪問調査が行われ、当センターでの人間ドックや健診が男女別の専

用フロアにリニューアルされた明るく落ち着いた雰囲気の中で、適切かつ安全にプライバシーにも配慮して実施されていることなどが高く評価され、当センターが機能評価認定の基準を満たす人間ドックや健診の組織を確立して「受診者の満足と安心」「質の確保」「運営の合理性」などに努めていることが認められました。

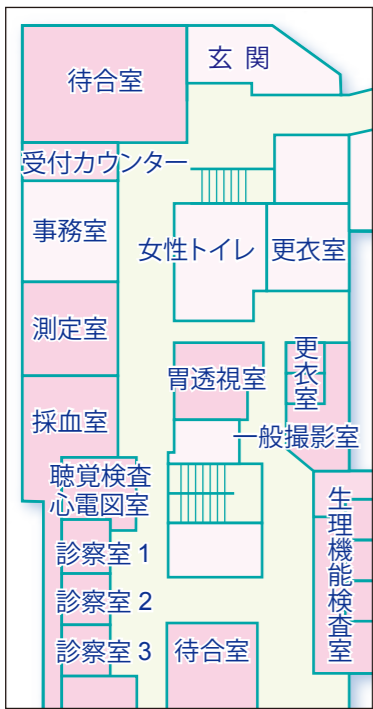
## 女性フロアをリニューアル

新古賀クリニックの健康管理センターを進めていた女性フロアの改修工事が完成し、今年3月から新装オープンしました（写真）。

今回のリニューアルは、健康管理センターの女性受診者が男女同一フロアだった2006年度に比べて2・3倍にも急増したため、女性受診者がスムーズな流れの中でゆったり受診していただけるように、女性フロアの既存スペース380平方mを有効利用して実施しました。女性フロアの受付を約5m前方に移動して、受



診スペースを確保し、受付待合ロビーは少し狭くなりましたが、受付から一目で受診者が安全に女性フロアに入って来られるのを見渡せるようになりました。さらに、通路の幅を約1m拡張して2・85mにし、受診者がゆったり行き来していただけるようにするとともに、受付奥の事務室後方には新たに身体測定室、採血室、聴覚・心電図室を並んで配置し、受診者が部屋の並びに沿ってスムーズに受診していただけるようにしました。



また、診察室を一つ増やして3室にするとともに、採尿のためのトイレも2室増やして計5室にし、一般撮影室には更衣室2室を新設しました。

### …… からだ言葉のカルテ⑤ ……

国立国語研究所の日本語地図によると、「目(め)」は西日本から東日本南部にかけての広い地域で使われ、東日本北部や西日本周辺の特定期域では「まなこ」が「目」の意味で使われています。この分布は柳田国男が確立した方言圏論の典型で、「め」よりも前に「まなこ」が「目」を表す日本語として使われていたことを物語っています。さらに、「まなこ」の「な」は現代語「の」に当たる助詞で、「まなこ」は「目の子」という語形に分解出来ます。「ま」単独での「目」としての使用がもっと古い日本語であったことは確かです。



では、なぜ「ま」が「目」の意味で使われなくなったのでしょうか。おそらく、同音の強力な異義語が生まれて、意味の伝達に支障が出たためです。その同音異義語は、「やま(山)」「しま(島)」「ぬま(沼)」「くま(隈)」など語基となった「処」「所」という意味の「間(ま)」だったのではないのでしょうか。「ま」から直接「め」に母音転換しなかったのは、「目(ま)」と「間(ま)」の同音衝突が、日本語の母音にまだ「e」という母音がなかった縄文時代以前のことだったためと考えられます。(水)

### 「浸潤とは？」

「浸」は浸みること、「潤」は潤うことで、「浸潤」はがん細胞が次第に周囲の組織を壊しながら入り込み、広がっていくことです。がんの広がりを表す言葉として、「転移」がよく使われ、患者さんにもなじみがある言葉ですが、「転移」は身体の離れた部分にがんが飛び火して広がることであるのに対して、「浸潤」はがんがまわりに浸み込むように広がることです。

### 「重篤とは？」

「重篤」は「浸潤」より比較的多く使われる言葉ですが、「重症」「重体」「危篤(きとく)」などとの使い分けもあいまいで分かりにくい言葉です。「重篤な症状」は「非常に重く、生命に危険が及ぶ症状」、「重篤な副作用」は「とても重い副作用」などと言い換え、患者さんには使わないように努めた言葉です。ちなみに医療者の間ではよく使われる「減弱(げんじやく)」は「弱まる」、「頻回(ひんかい)」は「頻繁」の意味です。

**編集後記** 第5号が出来上がりましたのでお届けします。今回は院長、副院長のごあいさつ特集を組み、紙面の都合でやや窮屈なレイアウトになってしまいましたが、見開き面を有効活用して出来る限り読みやすく苦心したつもりです。掲載できませんでした副院長のごあいさつは次号に掲載いたします。お問い合わせやご指摘、ご要望などがございましたら広報部(0942・35・2843)までご連絡下さい。